

ジェイシフ

JSHIF



冬

2013.1. NO.59

- 斎藤会長 年頭所感 — 2
第9回シンポジウム — 3
2012 スポーツ&レジャーフェスティバル — 4
医療連携プロセス標準策定調査 — 6
会員紹介 — 7

公益社団法人 スポーツ健康産業団体連合会



年頭所感

公益社団法人 スポーツ健康産業団体連合会

会長 齋藤敏一

2013年の新春を迎え皆様ともどもお慶び申し上げます。

スポーツには、心を晴らす力、夢や希望をもたらす大きな力があります。昨年、ロンドンオリンピック、パラリンピックの開催年でした。オリンピックでは、日本選手は金7、銀14、銅17の史上最多の38個のメダルを獲得し、大健闘しました。今大会は、競技チームが仲間との強い連帯感で一丸となって他国と競り合ったのが特徴的で、結果として団体戦やチーム種目で多くのメダルを獲得しました。パラリンピックでも日本選手は障害を乗り越えて大活躍をして、金、銀、銅のメダルを獲得しました。このロンドン大会の熱い想いを「2020オリンピック・パラリンピック東京招致」に是非つなげたいと思います。

また、一昨年に発生した東日本大震災により被災した地域の復興は関係者の皆様の多大の尽力にも拘わらず、被災者が期待しているほどには進んでおりません。一日も早く復興し、被災地の企業活動や日常生活が平常に戻ることが望まれるところです。

健康産業では、メタボリック（内臓脂肪）症候群の改善を促す特定健診・特定保健指導の制度が定着し、国民の健康づくりのために制度の一層の活用が期待されます。また、国民の健康への関心が非常に高まっており、東京、大阪、横浜等、全国各地で市民マラソン、ウォーキング等の大会が盛んに行われております。スポーツが健康に資することは、学術的に実証されており、楽しんで運動する、スポーツすることこそが健康への最良の道と考えます。

昨年末には衆議院議員の総選挙が実施され、3年余に及ぶ民主党政権の運営に対して国民の審判がなされたところです。新政権には是非とも景気の浮揚、雇用

の確保、財政の健全化、震災復興、外交等に全力で取り組んでいただきたいと思います。

本連合会では、昨年3月に第4回「地域・スポーツ振興賞」の表彰式を行いました。同賞は、スポーツを通じて地域振興に貢献したと認められる団体・グループ等を顕彰するもので、全国から24件のご応募があり、最優秀賞1点、優秀賞2点の授賞を行いました。今年は昨年4月に発足した一般社団法人 日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）と協働でスポーツ振興賞を創設し、「スポーツツーリズム賞」及び「スポーツとまちづくり賞」を募集しております。多数のご応募を期待しております。

また、スポーツ人口の拡大とスポーツ産業を一層振興するためにシンポジウムを2回開催するとともに、例年実施しております市民生涯スポーツ大祭を静岡県で実施し、多数の県民のご参加をいただきました。調査研究では、3年連続して経済産業省等のご支援により医療・介護周辺サービス産業創出調査事業として本年度は「医療連携プロセス標準策定調査」を実施しております。

本連合会は、昨年3月23日付けで内閣総理大臣から一般社団・財団法人法及び公益認定法の整備等に関する法律に基づいて公益社団法人としての認定をいただき、4月1日付けで公益社団法人の登記をし、公益社団法人として積極的に事業を展開しているところです。また、昨年9月に経費節減と心機一転の観点から事務所を永年おりました千代田区神田神保町から港区北青山に移転しました。

本年も事業計画に掲げた事業の実現を図り、スポーツの普及の振興はもとよりスポーツ健康産業の一層の発展に努力してまいります。皆様の益々のご発展とご活躍をお祈りし年頭の挨拶といたします。

スポーツツーリズム

より豊かなニッポン観光の創造、スポーツとツーリズムの更なる融合によるビジネスの創出を目標とした概念「スポーツツーリズム」をテーマとして、第9回シンポジウムが開催されました。まず早稲田大学スポーツ科学学術院教授原田宗彦氏による「スポーツで人を動かす仕組みづくり：(一社)日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)の挑戦」と題した基調講演が行われ、続いては「スポーツとツーリズムの融合を目指して!」をテーマとしたパネルディスカッションを行い、活発な意見の交換がありました。ここでは基調講演の内容の一部を要約・抜粋して紹介します。

『スポーツで人を動かす仕組み』がスポーツツーリズムの核心となる

観光は戦前からあった非常に重要な産業領域だったのですが、長い間、日本が国として力を入れる産業としては認められていませんでした。しかし2002年、小泉内閣のときようやく経済活性化戦略のひとつに入りました。そこで観光産業の活性化・休暇の長期連続化が始まり、その後、2008年に観光庁が生まれました。観光立国推進本部ワーキンググループで「スポーツツーリズムの提唱」のあったのが2010年です。そして2012年、一般社団法人スポーツツーリズム推進機構(JSTA)設立というのが、これまでのおおまかな流れになるわけです。

日本のスポーツツーリズムのトレンドということでは、たとえばアウトドアスポーツも昔はBE-PAL世代といいますが、機能だけを重視するヘビーデューティのような世界があったのですが、今はガラッと風景が変わりました。アウトドア用品も軽量化、高機能化、ファッション化、女性がおしゃれに、かわいくアウトドアスポーツを楽しむ。大きなイノベーションが起きています。

競技に関しても、トライアスロン、デュアスロン、ヒルクライム、トレイルラン、マラソン、これは日本全国で右肩上がり参加者が増えている。レジャーの世界でも、リバーラフティング、キャニオニング、あるいはジップライン、ボルダリングとか。あまり聞き慣れない活動が深く静かに人気を高めているのが現状です。

こうしたアウトドアスポーツ人気の背景には、ハイテクで贅沢な野外文明を楽しむ風潮がある。世界的な兆候です。自然の中で過酷な体験をするのではなく、あくまで今ある以上に快適な生活をアウトドアの中でやりたい、あるいはできるような環境が整ってきたということです。

こうした動きを支えるのが、いわゆるアウトドア用品で



I 基調講演 原田宗彦氏(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)
『スポーツで人を動かす仕組みづくり：
(一社)日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)の挑戦』

II パネルディスカッション

テーマ 『スポーツとツーリズムの融合を目指して!』

●コーディネーター

丁野 朗氏(社団法人日本観光振興協会 常務理事・総合研究所長)

●パネリスト

飯塚尚登氏(秋田県観光文化スポーツ部スポーツ振興課 スポーツ振興監)

金子忠彦氏(公益財団法人横浜市体育協会 スポーツ事業部長)

坪田知広氏(前 国土交通省観光庁 スポーツ観光推進室長)

これも売り上げが増えている。日本では自転車の売り上げ、いわゆるママチャリではなくロードバイク、ロードレーサーの売り上げが毎年増えている場合もあるわけです。

我々の研究室で過去3年間、トライアスロンの参加者の調査を行っているのですが、それで分かってきたことは無限界、脱年齢、継続性、社会行動です。つまりリミットレスでいつまでもやりたい。何歳になってもできる。ずっと続けたい。そして社会活動=誰かと一緒にやる。チームを組んで、グループを組んで応援団も引き連れていく。こうした社会行動も非常に大きいということです。

またアウトドアスポーツのおもしろいところは、世代効果です。その世代で楽しんだスポーツは、ずっと持ち越すという傾向があります。若い世代がひとつのスポーツに親しむと、この傾向はずっと続く。そう言われております。

経済効果への注目も集まっていますね。沖縄県が補助金を出して行ったスポーツツーリズム戦略推進事業があったのですが、簡単にまとめると、一般観光客にくらべてスポーツツーリストは観光消費額が大きい、初めて沖縄にきた人が多い、10代20代の若い人の比率が多い。さきほどの世代効果からすると、これからもリピート率が高まるだろうと予測されるわけで、非常によい結果が得られました。

課題もたくさんあります。ひとつは少子高齢化、あるいは不況、あるいはファッズといいますが、一時的な流行ではないかという根源的な問題です。旅行者側の問題もありまして、日本人はよく働きます。有給休暇の消化率が非常によくない。まだまだ短期的な散在型周遊観光が主流で、5泊や6泊もすると間がもたないし、帰ったら自分の机がなくなるんじゃないかという恐怖感がある。また目的地側にも理由がいろいろあり、特にスポーツインフラの不足です。ただ休眠資源はあるので、どうやってそれを生かして商品開発力をつくるか。そういった多くの問題が、今後、解消されるべきではないかと思っています。



とびっきり! あさひテレビ祭り 2012スポーツ & レジャーフェスティバル



会期 / 2012年9月22日(土)、23日(日)
会場 / 静岡市葵スクウェア、
青葉シンボルロード

スポーツ&レジャーフェスティバルは、さまざまなスポーツ種目およびスポーツ産業の振興、そしてスポーツを活用して地域を元気にしようとする全国各地で開催されてきた市民生涯スポーツ大祭です。いろいろなスポーツを手軽に楽しむことのできるイベントとして、ひろく地域のみなさんに親しまれてきたものですが、昨2012年は静岡県民の心と健康づくりを図ると共に「ふるさとしずおか」への郷土愛を育むことを目的して開催。子供からお年寄りまで幅ひろい皆様のご参加を得て、成功裏のうちに終えることができました。

主催

とびっきり! あさひテレビ祭り /
スポーツ&レジャーフェスティバル運営委員会
(公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会・静岡朝日テレビ)

後援

経済産業省、文部科学省

期間中の観客動員数 延べ 16,300名

| イベント | 会場 | 22日(土) | 23日(日) |
|-------------------|-------------------|--------|--------|
| 開会式 | 青葉シンボルロードB1 | 1,100 | — |
| フリースタイル フットボール | 葵スクウェア 特設ステージ上 | 3,400 | — |
| サイクルダッシュ | 青葉シンボルロードB1 | 1,800 | 1,200 |
| 9フープス | 青葉シンボルロードB1 | 1,900 | 600 |
| スピードガン | 青葉シンボルロードB1 | 2,200 | 500 |
| ポケットゴルフ | 青葉シンボルロードB1 | 2,100 | 1,500 |
| 合計入場人数 | | 12,500 | 3,800 |

「レジャー de 思い出 家族みんな de DO! スポーツ!!」をキャッチフレーズとした2012年スポーツ&レジャーフェスティバルは、静岡市葵スクウェア、青葉シンボルロードを会場として開催。

今回は各種ニュースポーツ体験に加え、静岡朝日テレビのスポーツ番組「スポーツパラダイス」とコラボレーションし、特設ステージ上にてサッカーのリフティング技術を始めるとする自由な発想のスポーツ「フリースタイルフットボール」を世界的なパフォーマー「球舞-CUBE」が披露。参加者を募り様々な技術を体験していただきました。またメイン会場を青葉シンボルロードとしてサイクルダッシュ、9フープス、スピードガン、ポケットゴルフを老若男女に体験してもらうことができました。

土曜日は会場から公開放送を実施し、タレントの石塚英彦氏を始めニュースポーツを体験・中継してもらい、イベントの盛り上げに大変効果を及ぼしました。

すべてのイベントにお年寄りから子供まで参加いただき、まさにスポーツ&レジャーフェスティバルの考えにふさわしいイベントとして充実した2日間でした。

フリースタイルフットボール



サイクルダッシュ



9フープス



親子連れで賑わう会場



ポケットゴルフ



スピードガン



医療連携プロセス標準策定調査

医療・介護周辺サービス産業創出調査事業の一環として、本年度は疾病・介護予防民間サービス市場の振興に向けて、医療連携サービスの新たな基盤整備のために、医療機関と民間事業者から提供されるサービスとの連携のあり方を定める「医療連携プロセス標準策定調査」を実施しています。

我が国の医療・介護の需要増大の背景を見ると、高血圧症・糖尿病などの生活習慣病の増加があげられます。また介護費用の増大は生活習慣病の進行による脳卒中・心疾患等に加え、運動器の障害や認知症等の増加が背景になっています。

もちろんさまざまな疾病予防・介護予防のための施策がとられてはいますが、公費でまかなえない分野のサービス（自費サービス）事業の振興を図り、広く国民が自主的・継続的に病気予防や介護予防に取り組む市場を開拓することが欠かせません。

このため「医療連携プロセス標準策定コンソーシアム」では、自費サービス市場の振興に向けた基盤整備事業として、

利用者の指標となる疾病・介護予防サービスの品質に関する標準化事業を進めてきました。

また疾病・介護予防に向けた民間サービス利用促進のためには、サービス提供事業者のサービス品質指標づくり（標準化）と同時に、医療機関との連携による利用者の健康管理システムの構築も重要です。

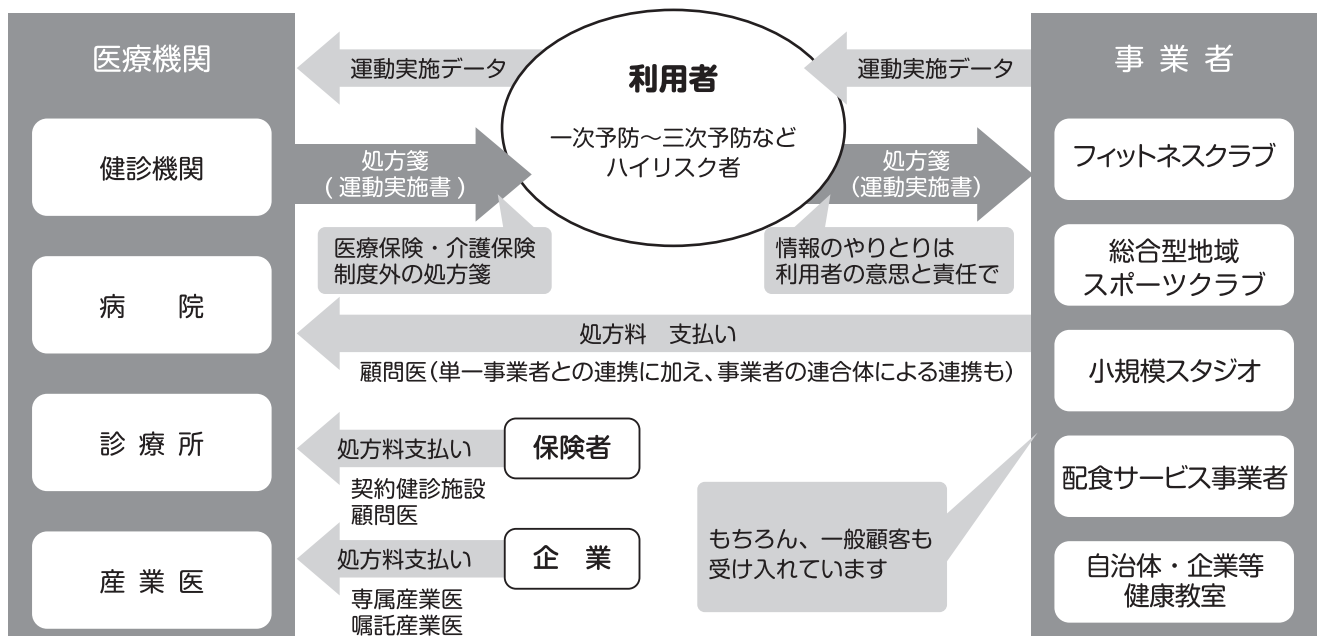
疾病予防や介護予防の必要性のある患者や健診受診者に対し、医療機関が民間サービス利用の橋渡しをするとともに、サービス利用データを含めた予防のための運動・食生活改善情况等を医療機関や介護機関と共有し、利用者の健康増進や予防に資するシステムを構築することが必要といえます。

この調査事業が目指す医療機関との連携イメージ

一次予防～三次予防における新たなマーケット創造に向けて
医療機関と連携したサービスを提供するためのプロセス標準づくりおよび
標準化による事業環境影響評価を実施

医療機関との連携イメージ（仮説）

利用者（ハイリスク）は、個人負担または健保・国保、企業、サービス事業者の費用負担で医療機関から指示書を受け、それを事業者へ持参。
事業者は指示書に基づいた自費サービス（健保、企業の補助含む）を提供。



仮説を含めて全体を概観すると上記の図のようになる

株式会社 東京ドーム

1937年、東京市（現東京都）の中心にプロ野球専用球場として「後樂園スタジアム」が建設されて早75年。日本で初めての屋根付き多目的スタジアム「東京ドーム」ができたのも、もう20年も前になります。

会社創立時は球場・球団一体化経営を目指していましたが、戦時下の経営難により球団を手放し、「プロ野球ビジネス」から徐々に「球場を核とした総合レジャービジネス」へと移り変わっていきました。球場では野球以外にもスキー大会や大相撲、アメリカンフットボール、サッカーなど数々のスポーツイベントが行われ、球場周辺には遊園地や映画館のほか、ボウリングセンター、ローラースケートリンク、アイススケートリンク、ボクシングジムなどの屋内スポーツ施設を次々とオープン。最先端のコンテンツと設備を採り入れ、時には「日本初！」と話題になることにも挑戦しつつ歩んでまいりました。



現在では、「球場」から「多目的スタジアム」へとバージョンアップした「東京ドーム」をはじめ、東京ドームシティアトラクションズ、後樂園ホール、東京ドームホテル、ラクア、ミーツポート、アソボ〜ノ！など、多彩なエンタテインメントを備えた「東京ドームシティ」を核とする事業を展開しています。

これからもお客様に心から楽しんでいただける都市型レジャーを追い求め続けることを社会的な使命と捉え、レジャー・サービス業のリーディングカンパニーとして、スポーツ界の発展に寄与できることを願っています。

■所在地：〒112-8575 東京都文京区後楽1-3-61

■電話：03-3811-2111 (代)

■ホームページ <http://www.tokyo-dome.jp/>

会員紹介

会員の皆様の事業内容をご紹介します

株式会社 電通

私たち電通は、グループ全体としての理念を表わすスローガンとして、「Good Innovation.」(グッド・イノベーション)という言葉掲げています。この「イノベーション」という言葉には、単なる技術革新ということだけでなく、自らの働き方を変革するとともに、アイデアによって新たな価値を創造し、社会全体に、より良い利益と幸せをもたらす企業グループでありたいという私たちの決意が込められています。「その手があったか」と言われるアイデア、「そこまでやるか」と言われる技術、「そんなことまで」と言われる企業家精神を発揮してイノベーションを創造し、社会に新たな変化をもたらすことが電通グループの社会的使命であり、すべての関係の皆様にとっての電通グループの価値を高めることにつながるものと考えています。私たちが自らの社会的使命を果たし、その価値を高めていくためには、社会、企業、そして生活者の変化を的確に捉え続けることが重要であると考えています。

様々な事業を抱える我々電通にとって、特にスポーツ分野では、国内外の各種スポーツの団体と長年にわたり強固な関係を維持しており、オリンピックやFIFAワールドカップに代表される世界的規模のものから、市民参加型のスポーツイベントに至るまでの、多様な権利を獲得・保持しています。また、近年では、東京マラソンに代表されるような市民参加型のスポーツイベントの実施に際して、その

dentsu Good Innovation.

運営にまで深くかかわることによって、大会を成功に導くことのほか、スポーツを通じての様々な自治体の地域おこしや観光振興などにも寄与しています。

また今後の高齢化の進展とも相まって成長が期待される医療・健康・介護事業は、様々な産業的、社会的課題が山積される重要な領域です。産業全体としての生産性向上や高騰する医療費の中長期的な抑制、更にはサービスの送り手と受け手のコミュニケーションギャップの改善や生活者・患者の幸福感、QOLの向上などの多岐にわたる課題に一定のソリューションをご提供することを目指しております。そのためには、健康増進価値を有するスポーツを効果的に取り込むことにより、様々な展開が可能と考えております。

当社として本会に参加させていただき数年経ちますが、今後は会員の皆様とより密な連携を取らせていただき、公益法人としてのミッションを少しでも全うできるよう、微力ながら貢献してまいりたいと考えております。お気軽にお声掛けいただければ幸いです。

■所在地：〒105-7001 東京都港区東新橋1-8-1

■電話：03-6216-9523 (ソーシャル・ソリューション局)

■ホームページ <http://www.dentsu.co.jp>

第1回スポーツ振興賞

—スポーツツーリズム賞／スポーツとまちづくり賞

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会と一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構は「第1回スポーツ振興賞」(スポーツツーリズム賞、スポーツとまちづくり賞)の募集を行いました。全国からスポーツツーリズムやスポーツによるまちづくりに貢献した団体・グループの方々による多数のご応募をいただき、あり

多数のご応募、
ありがとうございました。

がとうございました。

応募のあったものの中から、(公社)スポーツ健康産業団体連合会と(一社)日本スポーツツーリズム推進機構が共同で設置する、スポーツ振興賞選考委員会において選考・決定の上、3月開催の「第10回シンポジウム」の席上にて表彰を予定しています。

平成24年度 情報交換会

2020オリンピック・パラリンピック東京招致について

東日本大震災、ユーロ危機、尖閣諸島問題と続いて日本経済は激動の中にありますが、スポーツ産業界も明日への発展の方向性を模索しているところです。

折しも2020年オリンピック・パラリンピック東京招致活動のピークを迎えようとしています。東京招致に成功すればスポーツ産業界の大きな起爆剤となることが期待されます。そこで元駐ギリシャ大使で現在オリンピック招致にご活躍中の望月敏夫氏を講師としてお招きします。招致活動の状況と今後の展開について情報交換し、招致活動を応援しましょう。

(参加申込み締切り 1月29日)

■講演 望月敏夫氏

(元駐ギリシャ大使、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会スペシャル・アドバイザー)

—東京オリンピック・パラリンピック招致活動の現状と見通し

■対談 望月敏夫氏

舛本直文氏(首都大学東京 教授)

—招致活動を含む近年のオリンピックの特色と課題

開催日時/1月31日(木) 15:00

場所/スタジアムプレイス青山9F ビジョンホール
東京都港区北青山2-9-5

第10回シンポジウムのお知らせ

第10回シンポジウムを下記の日程で開催します。

日時/3月4日(月) 15:00~18:00

場所/スタジアムプレイス青山(東京都港区北青山2-9-5)

内容

- 基調講演
- 第1回スポーツ振興賞の表彰

※詳細は決まり次第ご案内いたします。

各社・各団体とも、未来の産業を担う若い男・女の参加を歓迎いたします。

移転しました。

JSHIF2013.1.No.59(冬号)

発行 公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会
Japan Sports Health Industries Federation

〒107-0061 東京都港区北青山2丁目9番5号
スタジアムプレイス青山10階 1009室

STADIUM PLACE AOYAMA 10F 1009, 2-9-5 Kitaoyama, Minato-Ku Tokyo 107-0061 Japan

TEL03-6434-9510 FAX03-6434-9511

ホームページアドレス <http://www.jsif.or.jp/>

発行日 2013年1月15日

発行責任者 広報宣伝・調査部会 部会長 池田朝彦

編集協力 株式会社 創ファクトリー

